

『生きる喜びを知る教え』が仏教。仏法を聞く (聞法)とは、『本当の自分』を知ることです。

○仏教は『自分の命の中に喜びを見つける』教えで、仏法とは『仏(お釈迦様)が説かれた教え(法=真理・眞実)』です。お盆・彼岸には『墓参りや先祖供養をするのが仏教だ』と思っている人がいます。が、お釈迦様は『人間、死んだ後は、どうなる』などの事は何も言わていません。ひともんぼう人がいります。が、お釈迦様は『人間、死んだ後は、どうなる』などの事は何も言わていません。

1 聞法すると、良い人間になれるのではなく・自分勝手に腹を立ててストレス(煩惱)を溜めている私の姿が、智慧の光明により見えて来るので【腹立たば鏡】の前に立って見よ・鬼(仁王様)の顔が只で見られる】世の中は私の思い通りにならず、人生は苦である(お釈迦様)。

2 人間の生きる世界(此岸)は【損か・得か、敵か・味方か】という濁った世の中で、自分が順調な時は、我を張つたり・周りの人をイジメ・差別したりします。が、この世は常に変化し(無常)、若い時はバリバリ働いたが、年を取ると役に立たない私と思い、情けなくなつたりします。わかれどい時は、我を張つたり・周りの人をイジメ・差別したりします。が、この世は常に変化し(無常)、若い時はバリバリ働いたが、年を取ると役に立たない私と思い、情けなくなつたりします。

3 阿弥陀経の中に、『極楽国土には、七重の宝珠付きの欄干・金・銀・青玉・水晶などがあり、池の中には青色青光・黃色黄光・赤色赤光・白色白光の4種類の大きな蓮華(ハスの花)があり、池の色(個性)で光り輝いている』とあります。これら極楽浄土の情景を表したのが『お内仏(仏壇)』で、光が当たると全てが金色に輝きます。つまり、極楽浄土(彼岸)は、『極めて(非常に)楽で・争いを水で流して争いが無く・阿弥陀仏の手の平に支えられ・全ての人々が目や顔を輝かせて・善人や悪人、邪魔物なども無く・全てが安心して生きて行ける土地(世界)』です。

4 地獄・極楽は(私たち人間の)心】この世にあり(諺)で、私の心の持ち方しだいで、この世は『借金・孤独・交通・受験地獄】にも、また『アア美味しかった・貴方と会話して本当に樂しく・生きる勇気と喜びを貢つたとの極楽(極めて・非常に樂)な気持ち』にもなるものです。

5 『往相回向』は阿弥陀仏に救われ・極楽浄土に生まれて成仏すること。仏となり、再びこの世に還つて来て・迷える人々を救うことを『還相回向』と言います。数年前に大ヒットした二人)見守つています。『一人いて喜ばは一人と思ふべし・一人いて喜ばは三人と思うべし・その一人は親鸞なり』】現生正定聚「今生で、往生(した人々の仲間入りをする)する身と定まる」。

6 無数の縁(条件)により、今の私があるのダ』と目覚め・感謝すると、喜びホルモンが脳から多く出て、ストレス(煩惱)が解消され、『健康づくり・病気予防』に繋がります!